

今週

1. 今日ミサ後 主日ミサ先唱者の集まりがあります。その後、社会活動委員会を行います。

各委員会・係からのお知らせ

1. 教会評議会より・

- ①先週13日(日)ミサ後、教会評議会を行い、以下のことについて話し合いました。

(a)長期化したコロナ禍は続いています。自宅検温を行い、熱があるなど体調不良の場合は、ミサへの参加を自粛する、ミサ参加時のマスクの着用、入館時のアルコールでの手指消毒、ミサ中換気を十分に行うなど感染対策をより徹底しながら少しずつ教会活動を正常化していく。具体的には、12月11日(日)の待降節黙想会よりA・C班、B班の班分けをしての隔週のミサ参加要請はしない。

(b)12月18日(日)より新旋律の「いつくしみの賛歌」「栄光の賛歌」「感謝の賛歌」「平和の賛歌」をこれまでの入祭の歌等に加えて、当面の間、聖歌隊のみが歌う。

(c)年末年始のミサ時間等は、メール・ハガキでお知らせする。

その他、詳細は信徒館に議事録を掲示していますのでご覧ください。また、ご質問・ご意見がありましたら評議会までお寄せください。

- ②待降節第1主日の27日(日)と12月4日(日)、主日ミサの始まる前と後に、安神父様がゆるしの秘跡を授けてくださいます。希望される方は事前に神父様にお申し出ください。黙想会当日希望者が集中しないようよろしくお願いいたします。また、安神父様からのゆるしの秘跡についての文章を「聖書と典礼」に挟んでいます。ぜひお読みください。

- ③27日(日)からミサは新式次第に代わります。新式次第の冊子をご持参ください。

2. 社会活動委員会より・

- ①「口と足で描く芸術家協会」のクリスマスカード、年賀状等の販売のご案内を聖堂入口に掲示しております。掲示板に備え付けの申込用紙にお名前と電話番号、品番に数量を書き、注文袋にお入れ下さい。申し込み締め切りは11月27日(日)です。

- ②12月4日まで“クリスマス献金”を行います。献金袋を聖堂後方の机上に用意していますので各自お持ち帰り募金箱にお入れください。なお献金は募金箱に直接入れていただいても結構です。例年通り各献金先に支援するため皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- ③韓国語教室でカンボジアの学生サルンさんへの支援金140,182円があつりましたが、JLMM(日本カトリック信徒宣教者会)の漆原事務局長より、サルンさんは今年6月に大学を卒業されており、長期の支援に感謝しておられますとの連絡がありました。そのため集まった支援金はクリスマス献金としてJLMMに4万円とハウスオブジョイに10万円をお送りします。

- ④10日(木)、炊き出し配給数93名に対し13名のご支援を頂きました。募金、お米の寄贈にも感謝いたします。これからも祈りとご協力をお願いします。

- ⑤障害者支援施設ヨゼフ寮「ともしび会」に2017年より月1回参加しています。入所利用者と共に聖書に親しむ集いとしてレクリエーション等も取り入れた交流支援活動に対して社会福祉法人ヨハネ会より感謝状を贈呈されることになりました。

- ⑥11月分のウクライナ募金28,110円をカリタスジャパンに送金いたしました。皆様ご支援ありがとうございました。

3. ヨセフ会より・

12月4日(日)ミサ後、信徒館2階にてヨセフ会を行います。続いて親睦会を予定しています。参加希望者は信徒館机上の申し込み用紙にご記入下さい。締め切りは11月27日です。

4. バザー委員より・

手芸品の販売は10月6日から30日まで4週間の合計は103,590円となりました。お手伝いいただいた方をはじめ献金ご協力ありがとうございました。年末にクリスマス献金として送金いたします。

5. レジオ・マリエより・

カトリック新聞「クリスマス特集号」販売のご案内

特別価格で1部100円（送料・税込み、但し10部以上のお申し込みがある場合）です。購入を希望される方は、聖堂後方の机上の申し込み用紙に氏名と部数をご記入ください。締め切りは12月11日（日）です。なお、定期購読されている方は、申し込みの必要はありません。

6. 女子パウロ会より・

2023年のカレンダー・手帳及びクリスマスグッズが届きました。注文された方は信徒館にて代金と引き換えでお渡ししますのでよろしく願いいたします。

7. その他・

11月主日ミサ参加班分け・司式司祭

主 日 等	参加班	司 式 司 祭
11月27日（日）	A&C班	安旻祐神父

A&C班 = 鈴蘭台地区&西神、三木、小野地区 B班 = 北鈴蘭台地区より北神地区

待降節黙想会に向けて

酒井俊弘補佐司教様のご指導による、12月11日（日）の待降節黙想会のテーマは「交わり・参加・宣教～シノドスを生きる小教区共同体となるために～」です。黙想会を前にして、このシノドスについて考えてみます。

シノドスとは？

教皇フランシスコは、2023年10月にローマで第16回シノドス（世界代表司教会議）を開催すると発表されました。テーマは、「ともに歩む教会のため～交わり、参加、そして宣教」です。

「シノドス」とは、「ともに歩む」という意味のギリシャ語で、一定時に会合する司教たちの集会のことです。世界中の司教たちが教皇とともに歩むという第二バチカン公会議の精神を保つために、1965年、教皇パウロ六世によって設置したものです。

これまでのシノドスでは、新福音化、家庭、若者、アマゾンなどのテーマで行われましたが、今回は、まさに、「ともに歩む教会の在り方としての「シノダリティ（シノドス的）」が主題となっています。「ともに歩む教会」としての交わりの在り方、共同体の多様性の中でともに参加すること、そして宣教の使命をよりよく務めていくあり方を探ろうというものです。

シノダリティ（シノドス的）とは？

シノドス的な教会とは、耳を傾ける教会、信徒、司祭、助祭、修道者、司教、そして教皇がそれぞれ相互に耳を傾け合い、また全員が真理の霊に耳を傾け、霊がわたしたちに告げていることを理解するもの。

「シノダリティ」が表わす主な原則は

- ・霊の呼びかけを思い起こす。
- ・すべての人の声を聞く、参加型の教会プロセスを生きる。
- ・カリスマの多様性を認識する。
- ・福音宣教のための参加型の方法を見つける。
- ・反福音的な動きを見極める。
- ・社会の癒しや和解のために信頼できる教会となる。
- ・キリスト教諸派、他の宗教、市民団体との連携を強める。
- ・教会内のシノドス的な動きを促進する。